

平成 28 年度 第 1 回雲仙市入札監視委員会審議概要報告書

開催日時	平成 28 年 5 月 23 日（月） 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分																		
開催場所	雲仙市役所別館 3 階会議室 1																		
報告案件 及び 審査案件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 入札監視委員会設置要綱の改正について 3. 指名停止措置案件の報告について 4. 抽出案件の審査について <ol style="list-style-type: none"> ① 市道吾妻吹ノ原幹線改良工事（2 工区） ② 市道国見岩名 2 号線岩名橋架替工事 ③ 国見上水道（川西）水道布設替工事 ④ 射場地区（道路）災害復旧工事 ⑤ 奥田頭地区（畑）災害復旧工事 ⑥ 雲仙市役所改修工事（建築主体工事） ⑦ 雲仙市国見総合支所庁舎新築工事実施設計業務 ⑧ 北木指第 1 地区ほか地籍調査業務 5. 質疑応答 6. その他 																		
出席者 （委員）	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">委員長</td> <td style="width: 35%;">吉田 省三</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>中村 聖三</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>川島 陽介</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>吉田 博幸</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>重野 淳</td> </tr> </table>	委員長	吉田 省三	委員	中村 聖三	委員	川島 陽介	委員	吉田 博幸	委員	重野 淳								
委員長	吉田 省三																		
委員	中村 聖三																		
委員	川島 陽介																		
委員	吉田 博幸																		
委員	重野 淳																		
（雲仙市）	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 35%;">雲仙市副市長</td> <td>酒井 利和</td> </tr> <tr> <td>総務部長</td> <td>大山 真一</td> </tr> <tr> <td>総務部契約検査課長</td> <td>竹田 義則</td> </tr> <tr> <td>総務部契約検査課参事</td> <td>池田 輝彦</td> </tr> <tr> <td>総務部契約検査課係長</td> <td>井上 真</td> </tr> <tr> <td>総務部契約検査課主査</td> <td>木場 俊郎</td> </tr> <tr> <td>建設部道路河川課長</td> <td>松山 修三</td> </tr> <tr> <td>建設部道路河川課</td> <td>菅 康郎</td> </tr> <tr> <td>建設部道路河川課</td> <td>北川 貴房</td> </tr> </table>	雲仙市副市長	酒井 利和	総務部長	大山 真一	総務部契約検査課長	竹田 義則	総務部契約検査課参事	池田 輝彦	総務部契約検査課係長	井上 真	総務部契約検査課主査	木場 俊郎	建設部道路河川課長	松山 修三	建設部道路河川課	菅 康郎	建設部道路河川課	北川 貴房
雲仙市副市長	酒井 利和																		
総務部長	大山 真一																		
総務部契約検査課長	竹田 義則																		
総務部契約検査課参事	池田 輝彦																		
総務部契約検査課係長	井上 真																		
総務部契約検査課主査	木場 俊郎																		
建設部道路河川課長	松山 修三																		
建設部道路河川課	菅 康郎																		
建設部道路河川課	北川 貴房																		

環境水道部水道課	久保田利之
環境水道部水道課	勝矢 裕信
産業部農漁村整備課長	木本 昌平
産業部農漁村整備課	久米 重治
産業部農漁村整備課	馬場 歩
総務部政策企画課長	井手 潤也
総務部政策企画課	田口 文武
総務部政策企画課	川原 信二
建設部建築課長	住田 陽俊
建設部建築課	横田 博文
建設部用地課長	村山 岩穂
建設部用地課	永田 正浩
建設部用地課	伊藤 彰悟

【議事】

主な意見・質問	市側説明・回答
<p>1. 開会</p> <p>2. 入札監視委員会設置要綱の改正について</p> <p>3. 指名停止措置案件の報告について</p> <p>(委員意見)</p> <p>長崎市の田浦組、西海建設及び黒瀬建設の琴海線トンネル工事落盤事故で、指名停止資料の措置根拠のなかに、「死亡事故については、事故の重大性に鑑み、原則として安全管理措置に不適切があったものとして取り扱う。」とあるが、この根拠に疑問を感じる。</p> <p>4. 抽出案件の審査について</p>	<p>(事務局)</p> <p>平成27年度において建設コンサルタント等業務の平均落札率は75%程度です。測量、道路設計業務は94%程度、建築設計業務は60%程度と二極化傾向となっています。低入札の発生率も50%を超えています。このため、最低制限価格の必要性などについて、業務履行における問題点の有無や企業育成、経済性、競争性など多角的な観点から検討を行いたいため、今回より入札監視委員会の審議案件としてご意見ご提案をお願いします。</p> <p>(事務局)</p> <p>前回の11月から今回までの間に9件15業者の指名停止措置を行いました。市が独自に指名停止措置を行った案件はありませんが、長崎県からの指名停止措置の通知等により、市の有資格業者について措置を行いました。</p> <p>(事務局)</p> <p>県の担当者に電話確認を行い、死亡事故の重大性を考慮、また、業者の安全管理の状況について請負業者に責任があるとして県が指名停止を行っているため、安全管理に不適切があったとして判断しています。</p> <p>(事務局)</p> <p>10月から3月までに行った建設工事85件の入札案件です。制限付一般競争入札が32件、指名競争入札が53件です。平均落札率は92.08%です。4月から3月までに行った建設コンサルタント等業務49件の入札案件です。</p>

<p>①市道吾妻吹ノ原幹線改良工事（2工区）</p> <p>（抽出理由）</p> <p>21業者中、4業者を除いて、全部失格になっているというのは、入札事務以外で、設計の段階で何か問題はなかったのか。</p> <p>（委員意見）</p> <p>失格者を減らすという意味では、ランダム幅を小さくするとか方法があると思う。ランダム化については、市の考えもあり今すぐ変えるべきだということではないが、一時期よりは考え方も変わってきているところもあるので、検討していく必要があります。</p> <p>②市道国見岩名2号線岩名橋架替工事</p> <p>（抽出理由）</p> <p>20業者のうち、辞退、不参加者が多い。業者を選定するときに手持ち事情とか把握できていないのか。また、不参加者の取り扱いはどのようにしているのか。</p>	<p>すべて指名競争入札です。平均落札率は74.72%です。</p> <p>（担当課）</p> <p>入札のときに業者から提出される工事費内訳書を確認しておりますが、市の積算とほぼ同様のもので問題はありませんでした。</p> <p>（事務局）</p> <p>失格の要因は、最低制限価格のランダム係数の高い値が影響していると思われます。最低制限価格は、一定の基準価格を下回る入札を無条件で排除する制度です。ランダム化については、予定価格の漏洩防止や談合防止の制度として導入しています。今後においても、ランダム係数による影響に注視し、高落札率や不落が増加傾向の場合は検討する必要があると考えています。</p> <p>（事務局）</p> <p>他市の状況等を調査し、ランダム化を含め制度全体について検討します。</p> <p>（事務局）</p> <p>辞退については、業者に不利になることはありません。これまでの入札辞退の傾向により、指名数を最大限増やし、応札業者数で競争性の確保を図っています。また、辞退届けを提出しない業者については、個別に注意しています。不参加者へのペナルティーは行っていません。</p>
---	--

<p>(委員意見)</p> <p>不参加がないように辞退届け提出の指導を徹底してください。</p> <p>③国見上水道（川西）水道布設替工事 (抽出理由)</p> <p>入札額が各社接近しているので、談合するとすれば、こういう形が疑われにくいという形でやってくるのではないかと。</p> <p>④射場地区（道路）災害復旧工事 (抽出理由)</p> <p>1業者のみが落札可能範囲になっている。29業者の中で、辞退と不参加が多いうえに、落札者以外の参加3業者は予定価格超過になっている。</p> <p>⑤奥田頭地区（畑）災害復旧工事 (抽出理由)</p> <p>入札者が1人であり、落札率が高い。7業者が参加していないのは談合の疑いはないのか。</p> <p>(委員質疑)</p> <p>仮設道路を見れない現場は、実態に見合った</p>	<p>(事務局)</p> <p>最低制限価格帯を狙った応札と思われます。ここ数年において、同種工事の発注が多く、参加業者は積算の精度も高くなっているため、結果的に応札額が接近していると判断しています。</p> <p>(事務局)</p> <p>平成27年度の災害復旧工事は、例年に比べやや多い93地区です。農林災害34地区、公共土木災害59地区で、殆どが小浜町、南串山町に集中しています。落札者以外は、予定価格を超過した応札ですが、落札を避けたということより、自社施工可能価格を応札したのではないかと考えられます。落札した業者は最低制限価格帯を狙った応札であり、小規模な災害復旧工事であることなどから適正と判断しています。</p> <p>(事務局)</p> <p>土木Cランクによる入札で不落となり、再入札は土木Bランクから8業者を指名選定した案件です。辞退理由については、同時期に複数の発注があっており、手持ち工事の工期遵守のために参加し受注することが困難であるなど具体的であり、これまで農林災害の小規模工事は殆ど同じ理由での辞退が多いことから適正と判断しています。</p> <p>(担当課)</p> <p>重機搬入の際、農地の表土を剥いだり、最後</p>
---	--

積算となっているのか。

(委員意見)

小規模な災害復旧工事は、不落が起こらないように、現場条件を考慮した額となるよう国へ要望するとか単独費で手立てをする方法など研究して下さい。

(委員質疑)

抽出資料には、再入札案件の表示はあったか。

⑥雲仙市役所改修工事（建築主体工事）

(抽出理由)

1社のみのお札となっていて落札率が高い。

(委員質疑)

参加可能な業者は何業者か。

(委員質疑)

なぜ参加数が少ないのか。

の耕運などは、その経費を計上していません。そういう面では、業者に敬遠されていると思われます。

(事務局)

次回から、再入札案件とわかる表示にします。

(事務局)

1回目を1月7日、2回目を2月3日に入札実施したが、2者のお札で、超過、失格となり、不落となった案件です。

(事務局)

9業者です。

(事務局)

電気設備、機械設備工事と一体的に行う工事です。建築工事は、これらに付帯する天井、壁等の改修を行います。この工事は、平日作業ができないため、工期が長く、技術者の拘束期間が長いため、参加が少なかったのではと推測しています。

(担当課)

年度末になると技術者の確保が困難になり、入札に参加しないのではと思われます。

(事務局)

配置技術者ですが、年度末に終わる工事が多いため、技術者が配置できないところが多いよ

<p>(委員意見)</p> <p>1 回目の入札は、入札率も妥当と思われる。仮にランダム係数が影響して不落となっていれば、ランダム係数があることによる効能とそれによって雲仙市がどれだけ損しているかある程度考えたうえで、ランダム係数の今後の維持を検討して下さい。</p> <p>⑦雲仙市国見総合支所庁舎新築工事実施設計業務</p> <p>(抽出理由)</p> <p>落札率が極端に低い。これでほんとうに履行が可能なのか。</p> <p>(委員質疑)</p> <p>予定価格はどのように算出しているか。</p> <p>(委員質疑)</p> <p>成果品等について、問題はなかったのか。</p> <p>(委員意見)</p> <p>落札率が極端に低い場合、成果品が粗悪で使えない可能性があり得るため、履行をどのようにして担保するか、履行不可能なものをどう排除するかなど何らか考えるべきです。</p> <p>⑧北木指第1地区ほか地籍調査業務</p> <p>(抽出理由)</p> <p>全体的に一覧表を見て、測量一般について非常に落札率が高い。これを事務局としてどのように捉えているのか。また、業者に対してどのような対応をされているのか。</p>	<p>うです。国交省の取り組みのように、入札条件のなかで、技術者は4月から配置で可とするなどの条件を付ければもっと参加数が増え、競争性が確保できたのではと思われます。</p> <p>(担当課)</p> <p>入札後の打ち合わせ時に履行可能か聞き取りを行い、業務に支障なしと確認しました。</p> <p>(担当課)</p> <p>平成21年の国土交通省告示第15号により算出しています。</p> <p>(担当課)</p> <p>打ち合わせ回数も問題は無く、図面等の成果品にも問題はありませんでした。</p> <p>(事務局)</p> <p>平成25年度頃から落札率が高い傾向となり、参加者が固定しないような指名選定を行っています。また、予定価格帯を狙った応札と思われることや、談合情報等もありませんので、</p>
---	---

(委員質疑)

無理して低い価格で応札していないのは、業者は潤っていて余裕があるのか。それとも儲けが少なく、100%近くでしか応札できないのか。

(委員質疑)

土木業者へは年度初めに説明会をされているが、コンサル業者への説明会は実施していないのか。

(委員長意見)

再調査はありませんでしたが、指名停止の根拠、ランダム係数、入札不参加者の取り扱いや不落案件の減少対策などについて委員より意見、提案がっておりますので検討をお願いします。

指導等は行っておりません。

(事務局)

地籍調査業務については、普通の業務と違って手間がかかる内容と思われれます。作業に対して、金額を下げられないというのが現状にあると思います。

(事務局)

行っていません。